



# Oasis meets Books

オアシス・ミーツ・ブックス

本のあるオアシス 本のある人生

2019年7月 vol.6

## 10歳までに身につけたい 一生困らない子どものマナー / 西出ひろ子 川道 映里

デイサービス オアシス長瀬 / 介護士 大村 勝二



和室でやってはいけないマナーのひとつ、「敷居は踏んではいけない」。私達の身体は、骨で形が出来ていて、家にもその形を作るのに大切な骨となる柱というものがある。和室には柱と繋がっている「敷居」という大事な場所がある。この敷居を踏んでしまうと柱にも痛みが伝わって、家全体が歪んで壊れてしまうかもしれない。昔から伝わる、日本人のしきたり、マナーってすごいと改めて感じさせられました。



この本は妻が偶然、図書館から借りてきたものを何となく手にとり、読みはじめた本で、皆と仲良く生活する為のマナー(礼儀)を子ども達や保護者に解りやすく紹介した本です。「マナーは教えるものではなく伝えるもの。」  
「人に言うのは簡単。肝心なのは、それを自分が出来ているかどうか。」  
筆者は、日々相手を思いやる心を忘れずに、誰にも敬意を持って接する事が大事だと述べていて、同感できる読みやすい本です。

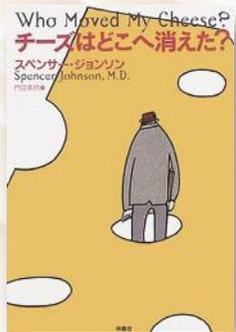
・次回⇒ デイサービス オアシス長瀬 / 介護士 中島 奈津子

## チーズはどこへ消えた? / スペンサー・ジョンソン

デイサービス オアシスキズリ / 介護士 五味 竜二



この本は、以前に勤めていた職場で、新人研修の際に必読する本の一冊でした。内容は2匹のネズミと2人の小人が「迷路」の中で「チーズ」を探す、という物語です。



チーズとは、仕事や家族・財産・健康など人生で求めているもの、迷路とは、会社や家庭・地域社会などチーズを追い求める場所を指します。迷路の中で当たり前の様にチーズがあった2匹と2人、それが突然に目の前から無くなるという変化があり、その変化に対してそれぞれがどの様に行動するかが描かれています。

この本では変化は起きるものであり、それを予期し、すばやく適応し、自身も変わろう、変化を楽しもう、とあり、それは正に現在の状況に似ていると思いました。

制度や方針、技術や理論などが目まぐるしく変わっていく中で自身はどう対応していくのか、改めて考えるきっかけとなった一冊でした。

・次回⇒ デイサービス オアシスキズリ / 介護士 古本 歩

4月に全国書店員が選ぶ「2019年本屋大賞」が発表されました。(今号でも一冊ご紹介いただいています) 「何か読みたいけど何を讀もう」と迷う時にはランクインされた本は丁度いいかも知れません。気になる本は教育委員にご一報を。オアシス文庫の新規購入選定の際、参考にさせていただきます(^^)

## 星の王子さま / サン＝テグジュペリ

グループホーム オアシス平野 / 介護士 福井 善治



この作品は、私が今まで出会った事のない不思議なものでした。しかし、読み進めていくうちに、のめりこんでしまうほど、独特の世界観を感じさせる素晴らしい内容の作品でした。



飛行機事故で砂漠に不時着した男が、そこで別の星から来た「星の王子さま」と出会い、王子さまがこれまで訪ねた星で体験した話を聞くという設定です。  
出会った当初、男は王子さまに「羊の絵を描いて」とせがまれ、男はいつもの羊の絵を描いてあげますが、王子さまはどれも気に入ってくれません。そこで、羊の描かれていない箱の絵を描いて「君の欲しい羊はこの中にいるよ」と説明します。すると王子さまは、この絵をとて気に入りました。  
この冒頭でのエピソードが、この物語全体の内容を象徴していると言ってもよく、物語全体を通して、「見えないものの大切さ」つまり「想像力」や「希望」といった「心の在り方」の大切さを作者が伝えようとした作品であったと私は感じました。  
また、様々な星での様々な出来事を通じて、様々な考え方に触れる事は「様々な考え方を許せる人間」へと成長する為には必要なことだと考えさせられました。

・次回⇒ グループホーム オアシス平野 / 介護士 丸田 哲也

## そして、バトンは渡された / 瀬尾 まいこ

特養 オアシス寿安 生活支援課 / 介護士 小牟禮 美佐子



これは「2019年本屋大賞」に選ばれた本です。その言葉にひかれ、読み始めました。



血の繋がらない親の間をリレーされ、4回も苗字が変わった結果、父親が三人、母親が二人いる。何だかとても複雑で辛い生活を送ってきたのだろう、と思いきや、全然不幸ではない、という森宮優子。

理想の親像に邁進しながら育ててくれる親と、今より大事にすべき過去などひとつもない、と現実に向き合う彼女。血の繋がりも、共にいた時間の長さも関係ない、家族の大切さが伝わってきます。

彼女の親になった人々の優しさに溢れた小説です。読み終わった後、とても温かい気持ちになります。

・次回⇒ 特養 オアシス寿安 生活支援課 / 介護士 小田 拓弘

## ザンビ / 久田 樹生

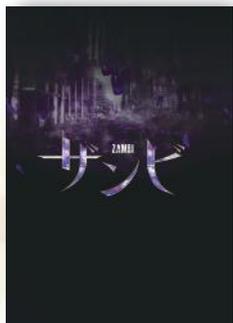
老健 オアシス リハビリテーション科 / 理学療法士 橋本 武

あの秋元康が企画した切なくも美しい新感覚サスペンスです。とある女子高校の生徒たちが修学旅行中、バスの故障で見知らぬ村に行き着いた。その村で一夜を過ごし、その後、学園で日常に戻ったかのように見えた生徒たちに次々と不思議な現象が起こってしまう。生徒たちの友情の美しさと、何事も諦めない強さが伝わってくる一冊です。



私は、小説を読んだことがなかったのですが、この本は、学生時代、部活動の最後の大会で「最後まで仲間たちと諦めたくない」と思いながら試合をしていたときを思い出して、あつという間に読み切ることができました。しかも、今年の1月から2ヵ月間テレビドラマが放送されていて、私はテレビドラマも見たのですが、あまりにも切なく美しい結末に泣いてしまいました。懐かしい学生時代を思い出させる作品なので、是非お勧めしたい一冊です。

・次回⇒老健 事務管理課 / 事務 古畑 拓也



## 日本のミイラ仏をたずねて / 土方 正志

介護支援センター オアシス / ケアマネジャー 小原 茂

30年以上前に即身仏の写真を見た時は、理解し難いもの、というのが最初の感想でした。



即身仏=ミイラ仏は自らの意志によって修行の末、土中に作られた石室に籠り、生きながら即身仏(ミイラ)になったもので、本書では現存が確認されている18件が取り上げられています。

即身仏信仰はアジアではよくみられるもので、本書はそれぞれの即身仏の伝承を丁寧に取材され、初めての方でも即身仏がどういったものか分かり易く書かれており、紀行文のようにも記されています。昨年、新編が出版され、新編にあたり最近の取材記録も追加されています。

即身仏は東北、東日本に集中し、山間の僻地に祀られているので、関西に居ては中々目にする機会がありません。その行動や信仰心は現在の思考からは理解し難いといわれることもありますが、その時々の人々の思いが本を読むことで伝わるかと思えます。



・次回⇒介護支援センター オアシス地下鉄平野駅前 / ケアマネジャー 三坂 有加子

## 運命を拓く / 中村 天風

デイケア オアシス寿安 / 柔道整復師 濱田 健太郎

朝少し早起きして読んでいただきたい… 今更かも知れませんが、あらためて人が前向きに生きることの大切さを思い知らされる、有名な著者「中村天風」。

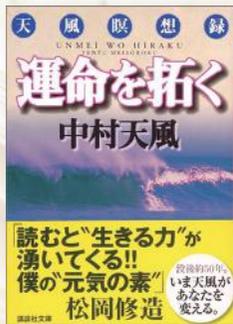


松下幸之助、稲盛和夫、松岡修造や大谷翔平までがその影響を受けたということでもよくメディアに取り上げられています。日露戦争の諜報員として死線をかい潜り、自身の病氣とも闘い抜いて悟った哲人の言葉には非常に重みがあります。

宇宙本体が生み出したこの世の森羅万象、その雄大なエネルギーの恩恵を最も多く頂戴している万物の霊長である「人間」。その人間として生かされている自分の人生を、いかに生き甲斐のあるものとしていくかを教えてくれる教本です。「蒔いた種のとおり花が咲く」当たり前…、かつ大好きなフレーズの一つ。

自分の運命の中に地獄を作るも極楽を作るも心のおき方次第。二度と生まれ変わることをできない人生を生活しているこの刹那刹那が自分が主人公であり、心を積極的にすることで実在意識を超える力に成長させていく。信念という人生の羅針盤を持って、生きている今日に感謝しようと思える。

一章あたり10~30分、一日の始まりに身体と頭がフツと軽くなる本です。



・次回⇒老健 オアシス デイケア・ロング / 介護士 岡村 智子

## オアシス文庫 recommend



石塚 真一

BLUE GIANT / 石塚 真一  
(コミック全10巻)

ライブハウスへ友人に誘われ生まれて初めてジャズを聴き魅了された主人公の宮本大♪ 楽譜もわからないバスケット部の高校生が「世界一のジャズスレイヤーになる!」事を目指しテナーサックスを毎日毎日… 毎日練習。厳しい声にもめげず、いつしか心を打つ奏者に、個人として成長、バンドメンバーとして共に成長していく姿はとても魅力的です。

雪祈のピアノ、大のテナーサックス、ドラムの音♪ が私自身の中で響き聴こえているように錯覚し、ページを捲る指が止まりません。

♪ソニー・ロリンズやジョン・コルトレンなど YouTubeでジャズを聴き、浸りながら「BLUE GIANT」2回目を読み返しています。皆様も是非!

「理事長お〜! 舞台をヨーロッパに移しての続編♪ 『BLUE GIANT SUPREME』がオアシス文庫に並び目を待っています(#^.^#)」。

老健入り口の書棚「オアシス文庫」から貸し出できます▶



## 編集後記

先日、大好きな漫画の展覧会に行ってきました。

主人公の部屋の再現や、名シーンのプロジェクションマッピングなど様々な趣向を凝らした会場内は、背広にネクタイの男性、キャリアバッグをひいた女性、小さな子連れファミリー、若いカップル、老夫婦など…

まさに老若男女、本当に大勢の人たちに溢れ、作者でもないのに感激してしまいました。

実在しない主人公たちの「日常」を見知らぬ人たちと共有する不思議な空間に、「本」がもたらす「想像する心」の無限の広がりを感じました。

